

通信 No.01

「鷺山中洙まち育て広場」のお知らせと報告です。

次回は・・・

10/25(日)

是非おこし下さい！

※2回目からの参加も大歓迎！

鷺山中洙 まち育て 広場

全4回プログラム

まちの未来を考えるための学びと話し合いの場

【場所：鷺山自治公民館】

第1回	こんなまちに住みたいナ
9月27日(日) 9:30~12:00	※幻燈会(先進事例のスライド)と話し合い
第2回	まちのタンケン
10月25日(日) 9:30~12:00	・ハッケン・ホットケン ※まちを歩きます。動きやすい服装でお越し下さい
第3回	地域課題をテーマ毎に
12月13日(日) 9:30~12:00	ほりさげよう ※お年よりの暮らしも道のことも色々・・・
第4回	こんなまちにしたい！
2月7日(日) 9:30~12:00	まちのヴィジョンを描こう ※まちの目標・理念を作成して、共有します

●学びと話し合いの場「鷺山中洙まち育て広場」がスタートしました！

この通信では、2015年9月27日に開催した、第1回「鷺山中洙まち育て広場」の様子をお伝えします。冒頭、(仮称)鷺山中洙土地区画整理世話人会代表の森瀬氏から、「鷺山中洙地区のまちづくりは、周辺の方々もふくめて、全体でこの地域のことを考えていきたいので、是非ご協力下さい。」とのあいさつがありました。また、岐阜市都市建設部区画整理課の山川課長からは、全4回にわたってまち育て広場を行う目的について説明がありました。その要旨は次の通りです。

- ・ 経緯として、道路の狭さや公園の未整備等を原因とする鷺山中洙地区の問題や課題があり、それらを解決するために、昨年10月の第1回説明会において土地区画整理事業を提案したこと。
- ・ 土地区画整理事業については、地域に賛否両論あることは承知しているが、区画整理という整備手法を考える前に、まずは地域のみなさんがこのまちの未来を描くための場が必要であると考へ「鷺山中洙まち育て広場」を企画したこと。

●幻燈会と話し合い

「希望の木」と「不安の木」

今回の学びの時間では、講師の延藤安弘氏から「まち育て」の考え方や先進事例についてのお話がありました。その後、鷺山中洲地区の希望や不安について話し合い、葉っぱに見立てた意見カードで「希望の木」「不安の木」をつくりました。みなさんの希望や不安について、意見分布を共有できる大樹が完成しました。

「希望の木」の意見カード

まちづくりへの期待	
夢	・まちづくりは夢があります。
将来の”まち”のイメージ	
育・職・住	・育・職・住の整った生涯空間を創りあげていきたい。
公共空間 ・ 道路	・鷺山は長良地区に比べて、これまでは「場末的」な感じだった。例えば大木の繁る公園、長良東中のような風格のある校舎などが無い。施設に個性がなく、紋切型、ワンパターンだった。これは反省せねば。 ・風通しのよい道、皆が集まれる公民館、公園づくりが必要と思った ・緑が多くて道路が整備され、静かな町が良い ・緑豊かな町 ・道路の整備が必要 ・今住んでいる家の地盤が悪くて家がかたむいてしまうので、しっかりした道が欲しい。 ・全体に中洲は道路がせますぎる
安心安全 防災	・鷺山には東西の大通りはあっても南北の大通りがなく、防災上も不安。これからは、県一の住みやすい町に。 ・災害があった場合、避難場所（公園とか）を作っていただきたい。 ・安心・安全で防災に強い町。
残したい 風景	・草平庵、水路が気持ちが良い。交流の場、いつも自転車で走っていました。
居場所づくり	
空き家活用	・まちの古家を再利用するためにリフォームをして、新しく利用することが良い。 ・中電の空き部屋の再利用を望む
居場所	・老人のいこいの場所が必要 ・皆が気軽に立ち寄れる場所作りは良い ・地域のつながりの場、人と人とのコミュニケーションのできる楽しみの持てる機会づくりができるが良い。
人と人のつながり	
多世代	・となり近所との交流があるまちづくり ・ウェットな人間関係を残していける「まち」をつくっていきたい。 ・「まちづくり」は今生きている世代とともに、次世代（子ども）のためのもの。この長い眼でつくるまちづくりへの発想転換が必要 ・「人が住む」まち一人が主役 子どもも大人も障害者もともに住むまち そして永続していくまち。
高齢者	・高齢者が増える中住みやすい環境作りの一例として参考。みどりの豊かな町作りは必要 ・高齢者が多くなっているの、道を広くするのは良いと思います。 ・高齢者交流。古き文化の活用 ・高齢者の集まれる所が出来ると良い。 ・10年、20年先の事を考えた。高齢者が住みやすい地域にしたい。 ・高齢者が安心して住める町
人育て	・指導者の育成

①幻燈会の様子



延藤氏の話のはじまりはなんと絵本！まち育ては手法よりも、「何をめざすのか」が大事という発想転換のお話からはじまりました。延藤氏が携った他地域の先進事例の紹介を観た参加者の反応は、夢がひろがったという人と、中洲地区とは条件が違い現実とは合わないのでは、という不安の声もありました。

参加者の印象の代表的なもの

「延藤先生の話のキーワードは「縁側」。すべての言葉に意義がある。」「夢のある町づくりのお話で中洲がこのようになればいいなと思いました。」「紹介のあった様々なまちづくりの取組は素晴らしい。何か小さなことからできないかなー。」「鷺山の現状では夢の話。現状と違いすぎ、参考にならない。」

②話し合いの様子

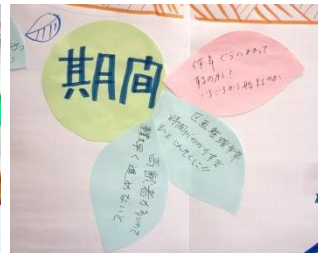
↓葉っぱカードに各々意見を書きます。“高齢者”の課題に関心が高いですね
↓不安の木と希望の木に意見の葉をしげらせていきます。
↓意見分布を確認しました。



「不安の木」の意見カード

まちづくりへの不安	
全体	・鷺山中洲はどうなるかな？
合意形成	・全地区の人々がまち作りに共有（共感）できるか？ ・女性の目線が入っていくことができるか ・世帯主だけの意見では、子育て世代の想いをうつし出すことができるか？意見の集め方を幅広くしてほしい。 ・農地所有者の声も聞いてみたい。
現状への不安	・区画整理で鷺山・正木と則武で新しいまちに生まれかわる。問題はその間を結ぶエリアがとり残される。このエリアも絡めて「まちづくり」を考えてほしい ・空き家が増えるなかでこれをどうするか。若者が住んでくれる町づくりが必要
区画整理事業への不安	
必要性	・これから人口が少なくなるので、あまり意味はない。 ・住んでいない住宅については対処すべきだと思う。しかし居住している所に手を加えるのはどうかと思う。
計画的まちづくり	・小学校の周りのように道はできても、バラバラに家が建っては延藤先生の紹介されたケースのようににはならないのでは？ ・現在はまだビジョンを考える段階ではないと思います。すでにスプロール化が進んでおり、地権者の多くは他の地域から住宅用地を取得して来られた方が多く、区画整理が成立するかも分からない。区画整理を進めるという前提で取り組むとすれば、どんな問題があるかを出して、どのように解決したらいいかという議論を進めて行った方がよいのではないかと。
合意形成	・幻燈会をみながら測量調査についての説明書、それと組合成立許可までの流れについて見ていました。住んでいる人は望んでいないので、会ごとに、賛成・反対をアンケートに記入して次回の案内前に公表しておくといい。
期間	・何年ぐらいかかってするのか？いつごろ始まるのか ・区画整理事業に時間がかかりすぎ。もっと迅速に！ ・高齢者が多いので事業を早く進めないかと。
測量	・測量調査についての都市建設部の号外に（お願い）とあり、文面に書かれている詳細測量作業・調査によって土地区画整理事業が行われることが決定するものではありませんとは何をいっているのか。 ・測量の説明を主にすべきなのに、幻燈会ではぐらかしではないか。
負担	・金銭的な負担はあるのか？あるならどれくらい？ ・今建っている自分の家がどうなるか？

これからの進め方



頭韻要約法による
おなじみ！ 延藤せんせい
の「まとも」



最後に、延藤氏がこれからに向けて、今回出てきた意見をその場でまとめ、ふりかえりました。

- さ** 幸いは“育・職・住”の生涯生活空間づくり。道はそのための基盤づくり
- ぎ** ギャップある事例を越えて、本地区に合う構想を考えよう！
- や** やさしい縁側のような居場所づくりを空き家活用で！
- ま** まちづくりは次世代へのおくりもの。長い眼でつくる発想転換をまちづくりの構想へ。
- み** みんなが住みやすい、日本一のまちづくりモデルを！
- ら** ラッキーな地域の宝(草平庵や水路等)を継承し、次へつなごう！
- い** 一部の人々でなく、地域内外の人、女性も含め話し合おう！一生活者目線で。
- へ** へこみたくなるトラブルをエネルギーに変えよう！対立を対話に。ゆっくり迅速に。

→(頭文字を結ぶと…)“**鷺山未来へ**”となりました。次回はまちを歩き、みなさんでつくるまちのビジョンに近づいて行きましょう！

【アンケートより】

1)「まち育て広場」について

- ・ いろいろな意見を出し合い共有することはすばらしい
- ・ 今日のお話を聞き楽しくなるような町づくり完成後は今では夢のようです。楽しみですが、我々の金額の負担が心配ですね。
- ・ 住みやすいまちづくりをするために何を考えたらいのか
- ・ 話が遠回りすぎて困ります。ムダ使いによるムダな負担はしたくありません。

2)幻燈会で印象的だったこと

- ・ この地区に住んでいる人が幸せになる町づくりになるといいと思う
- ・ 道路がせまく災害等が心配です。救急車が入らない道路、消防車が入らない道路
- ・ 具体的事例紹介があり、この鷺山の地域でも具体化できることの自信を与えたと考える。
- ・ 先生の話が現状とつながらない。
- ・ 住民(老人・子供)のコミュニケーションのとれる町づくり、すばらしい

3)話し合いで印象的だったこと

- ・ まちづくりの夢と区画整理事業の現実のギャップをどのようにしてうめていけるかが大きな課題
- ・ 町人の皆様が気軽に集う場所を設置してもらえると同時に困っている人(高齢者・弱者)が相談できるところを設置できたらいいと思う

4)会の運営全般について

- ・ 私にとっては現在の課題とのギャップがありすぎた
- ・ 区画整理であれば近くでも下土居や則武でもやっているわけですから、換地・減歩・負担もどの程度か具体化できるでしょう。調整区域については都市マスとの整合性もとるべきです。
- ・ 単なる区画整理というハード事業にとどまらず魅力のある住みやすいまちづくりへの取り組みはすばらしいと思いますが、現実にはむずかしい。元々鷺山で育った愛着のある地域なので、いいまちになってほしいと思います。
- ・ 地元の人、区域内に住んでいる人で方向性を考えて欲しい。地権者と住人は違う。自治会連合会等との連携を！